

実践報告 (Report)

## 保育者・教師養成課程における初年次教育としての施設(学校)見学を充実させる事前学習の実践

—学生が主体的に学ぶことを目指した「施設調べ」の試み—

The Pre-Study Practice To Enhance the Effect of School Visit as Education of the Freshman in the Training course of Care workers and Teachers: An Attempt of the Pre-Investigation of School to Enhance Active Learning of the Students

服部 次郎  
Hattori Jiro\*

### 摘 要

専門的な職業のひとつであるべき保育者・教師の養成課程において、学びの初期段階から、職場である現場の感覚を体験させることが重要といわれる。本研究においては、教育施設見学の事前学習が、初年次教育においても有効であるかを調べることを目的として、特に「施設調べ」を取り上げ、その効果を評価した。その結果、「施設調べ」をすることが学生の主体的学びを促進する上で、大きな意義をもつことが明らかになった。

キーワード：初年次教育、施設（学校）見学、学びの主体性、調べ学習

### 1. 研究の背景と目的

専門的な職業のひとつであるべき保育者・教師の養成課程においては、学びの初期段階から、職場である現場の感覚を体験させることの重要性が叫ばれてきた（須藤ほか2009）。初年次の施設（学校）見学の効果としては、現場を体験することによって、目指す職業へ就く気持ちが強くなるというキャリア教育的効果（奥ほか2009）、そして養成校での理論学習への意欲が高まるという相乗効果（中津ほか2007）が期待される。そのため、近年では、初年次教育課程（カリキュラム）の柱のひとつとして、施設見学、学校見学を取り入れる養成校が普通になってきた（中津ほか2007）。ただし、単に見学するだけでは、学びの効果は少なく、筆者は養成校教員による工夫が必要であると考えている。

服部・谷田貝（2010）は、短期大学保育者養成課程の保育実習指導（施設）において、学生自身が実習に行く予定の施設について事前に調べる「施設調べ」を行うこと、および「先輩学生の体験談」を聞くことが、不安の高まりがちな実習予定学生にとって有効であることを示した。そして、「先輩学生の体験談」が学生に実習への見通しを持たせ、「施設調べ」が実習への「学びの主体性」を引き出す可能性を明らかにし

てきた。

鈴木（2006）は、保育実習等の導入期において「観察実習プログラム」の実施を試みている。このなかで、観察の重要性の意識付けを行い、現場の見学実習をした上で、観察した内容を記録し、その記録に基づいた振り返りと考察、分析をするという順序で、10回の演習として実施している。その結果、学生に対して子どもの理解や保育の意識付けができ、教員の指導を体験を通じて咀嚼し直すことでより深い理解へと導き、さらに学生同士の自主的な気づきの元で学ぶことができ、受動的な学習ではなく主体的な学習を行うことで、より効果的な学習成果が得られたとしている。つまり、より「主体的な学び」を展開させていくことで、見学実習の振り返りを効果的に進めさせることができた、と報告している。このような実践例からも明らかなように、保育実習等の導入期における工夫はきわめて重要といえる。

本研究においては、教育施設見学前の事前学習が、初年次教育においても有効であるかを検証することが目的である。本論では、特に「施設調べ」を取り上げ、その効果を評価した。

## 2. 研究方法

### (1) 実践対象

「ふれあい実習Ⅰ」の授業は、担当者8名が連携して運営し、1年生前期に開講される初年度ゼミとなっている。この授業の対象者は教育学部保育・初等教育専修の学生約80名および初等中等教育専修の学生約80名が対象である。筆者は、保育・初等教育専修の学生20名を担当している。

### (2) 授業の進め方

表1に2011年度の授業の流れをまとめた。15回の授業を用いて、大学付属の4教育施設（幼稚園・小学校・中学校・高校）を順に見学し、その後、討論の時間が用意されている。これを4回繰り返し、最後に発表会を行い、終了という流れになっている。発表会では、学生一人ひとりが4回にわたる見学実習から学んだことなどを報告した。事前学習として「施設調べ」を課すことは、第2回目の授業で伝えた。その際、この準備をすることの大変さに理解を示しつつ、しかし何事も準備あってこそ、短い時間の学校等見学がより意義のあるものになることを、筆者のこれまでの経験から説明した。さらに、見学が終わったら、そのまとめをすることが、見学して体験したこと、発見したことなどの意味をきちんと整理して自分の学びの成果とすることができるとを説明した。

表1 2011年度「ふれあい実習」の流れ

回数	授業日	内 容
1	4/5	新入生ガイダンス（保初専修＋初中専修）
2	4/12	クラス別ガイダンス（1クラス20名程度）
3	4/19	実習指導ガイダンス（保育初等教育専修と初等中等教育専修で別）
4	4/26	高校での見学実習（服部担当クラス）
5	5/10	高校での見学実習について討論
6	5/17	幼稚園での見学実習（服部担当クラス）
7	5/24	幼稚園での見学実習について討論
8	5/31	小学校での見学実習（服部担当クラス）
9	6/7	小学校での見学実習について討論
10	6/14	保育実習ガイダンス（保育初等教育専修のみ）
11	6/21	中学校での見学実習（服部クラス）
12	6/28	中学校での見学実習について討論
13	7/5	図書館ツアーとクラス活動
14	7/12	次回の発表準備
15	7/19	発表会とまとめ

学生には、服部・谷田貝（2010）で用いられた項目に加筆した「施設調べ」の様式（A3用紙両面）を配布した（表2）。加筆した部分（裏面）は下線で示した。

表2-1 学生に配布した「施設調べ」の様式（表面）

1. 訪問先の実習機関に関する事前調べ
2. 見学に関する注意事項等の事前調べ
3. 見学の際の観察の視点と記録の書き方についての事前調べ
4. 今回の観察実習における自分のテーマの設定

表2-2 学生に配布した「施設調べ」の様式（裏面）

1. 訪問先の実習機関に関する情報、注意点、観察の視点と記録の書き方について事前に調べたことによって学べたこと
2. 自分のテーマについて学べたこと（「自分が先生であれば、どのようにしてみるか」についても述べなさい）
3. 観察実習を終えての感想
4. 討論（実習訪問した次の週に予定されているもの）を通じて学んだこと
5. 討論で他の学生のまとめを読んで学んだこと、および自分も取り入れてみたこと

加筆の理由は、一つ目については、「観察」という体験で終わるのではなく、当事者意識をもたせることで学生の考察を深めさせることを目指した。二つ目については、「自分では気づかない、いろいろな発想、視点、ものの見方・考え方を感じ取る」ことができるかと期待したからである。

### (3) 学習効果の評価

本実践の効果については、授業の最後に実施した授業アンケートによって評価した。アンケートの内容は以下の通りである。

表3 本実践の効果を評価するために用いたアンケートの内容

「ふれあい実習Ⅰ」（平成23年度前期）授業アンケート

平成23年7月12日（火）担当教員 服部 次郎

今回の「ふれあい実習Ⅰ」において、4か所の見学実習機関を見学実習するにあたって、事前に「施設調べ」を作成してもらいました。時間はかかったと思いますが、これまでの教員の経験から必ず役に立つものと思い、実施いたしました。学生の皆さんの率直な意見・感想をお願いいたします。

問1 役に立った程度について尋ねます（最も近い数字に○をつけてください）

5	4	3	2	1
とても役にたった	ある程度役にたった	どちらともいえない	あまり役に立たなかった	ほとんど役に立たなかった

問2 その理由は何ですか。自由に記述してください。

問3 （問1で5、4と答えた方に尋ねます）既に問2で答えていただいたかもしれませんが、どのような内容が、どういう理由で、自分の学びに役立ったか、より詳しく説明してください。

問4 「施設調べ」の裏も完成させてみて、このような作業をすることは、自分の専門家としての資質を高めるのにどのように役に立つと思われるか、自由に意見を述べてください。

問5 この授業で4か所の教育機関を見学実習しました。今このことを振り返ってみて、感じたこと、学んだこと、その他どのようなことでも結構ですので、あなたの意見・感想等を自由に記述してください。

協力ありがとうございました。

（注）「施設調べ」については後輩学生のためや、私の授業改善研究の資料として活用させていただく予定です（名前は出ません）が、それは困るという方がおられましたらお知らせください。

### 3. 結果

学生が提出した「施設調べ」の一部を次のページに示した。その内容の概要は以下の通りである。保育・初等教育専修の学生たちにある意味で最も心理的距離の大きい中学校と高等学校をとりあげ説明することで、逆説的ではあるが、そこを見学実習する効果が示しやすいと考える。学生の思いがよく伝わるものとして、中学校と高等学校の「施設調べ」をそれぞれひとつずつ図で紹介する。その内容から、「施設調べ」をしたことの効果を説明する。

まずは、高等学校についてである。ここで注目すべきは、授業の環境、具体的には「勉強しやすい環境」とは、生徒と先生が一緒になって作り上げるものであることをこの学生は述べている。この発見は、事前に高等学校の教育の特色を調べ、テーマを設定した上で見学実習に臨んだからこそ生まれたものといえる。昨年まで高校生であったこの学生は、高校での実習はあまり勉強にならないと考えていたが、実際に実習を受けることで予想以上に多くのことを学んだと感想を述べ、その要因についても分析している。今後自分自身が教える立場に立った時に必ず役に立つ学びができたといえる。これも、先に述べたとおり、事前の「施設調べ」がしてあったおかげで得ることができた成果と言える。

次に、中学校を見学実習した学生は、新たな視点を加えた施設調べに基づいて、まとめをしている。つまり、自分の立てたテーマについて学べたことに加えて、「自分が先生であればどうしてみるか」という視点と、討論において、「他の学生のまとめを読んで学んだこと、自分も取り入れてみたいこと」という二つの視点である。そこで見えてきたことは、①保育・初等教育専修の学生は、当初、幼稚園以外の教育施設には関心が薄いこと ②「ふれあい実習」を通して、見学したすべてについて知っておくことが大切であること ③自身は幼児と接することになるが、幼児も成長していくわけであるから、その成長を見据えた保育が大切であること、と述べており、先に述べた、人の成長全体のなかで幼児期の保育を考えることの大切さを実感できたという意味できわめて効果があったといえる。さらに自分が先生であったらどうするのか、他の学生の考えを参考にして見学のテーマを考えてみることの有益性も発見できている。つまり、これらが「主体的な学び」につながっており、それを可能にしたのは、やはり「施設調べ」という枠組みを取り入れたことによるところが大きいと考えられる。

ここでアンケート結果についてまとめる。「施設調べ」が役に立った程度について尋ねたところ（問1）、20名中13名が「ある程度役にたった」、6名が「どちらともいえない」、そして1名が「ほとんど役に立たなかった」と回答している。ここで、「ほとんど役に立たなかった」という1名と「どちらともいえない」と答えた6名について、理由を検討した。「ほとんど役に立たなかった」という1名は、「施設を事前に調べておいても、見学するのは授業風景だけだったので、調べておいたことは特に意味はなかったから。」と理由を述べている。

# 附属高等学校

椋山女学園  
教育学部

## ～見学実習～

### ○沿革○

学制改革による新教育制度の発足に伴い、それまでの椋山第一高等学校・椋山女子専門学校附属高等学校・椋山女子商業学校を合併して、昭和23年椋山女学園高等学校を開校しました。幼稚園・中学校・高等学部を南北に配置した椋山大学地区を形成しています。

### ○教育の特色○



education

「4つの教育目標」で人間性を育成!!

貴校は教育理念「人間になろう」を具現化するために

- ① 学力の増進
- ② 学力の増進
- ③ モラルの確立
- ④ 情報の育成

を4つの教育目標として掲げている。

総合「人間になろう!!」

椋山女学園の教育の特色である人間教育の集大成として位置づけられている。「人権」「環境」「国際理解・平和」の3領域から大テーマ「人間になろう」に集約されている。

広い視野と自ら学ぶ姿勢を築き、生き方や進路を考えることによって、ひと「人間」としてよく生きるための金銭や自主的・自立的に行動していく力と、実践的な自分自身の生きる力として獲得していくことを目指している。

理想的なカリキュラムを実現!!

1年生は、基礎学力の習得を目標として、2・3年生は、各自が希望進路に合わせて履修科目を選択し大学進学などに備えることができるカリキュラムを実現している。また、学校5日制の主旨を受けて、「主体的な学び方を育てる」ことを目的とした「土曜講座」開講しており、各自が好きなだけ受講することが可能である。

生徒主体の授業を展開

各自の能力を引き出す内容と、より自発的に授業に取り組む方向性を重視している。知識を教えるよりも、生徒自身が積極的に授業にかかわることと知識を習得し、それを駆使する方法を理解してほしいから。授業は、教師と生徒共通の学習の場であり、授業に対する姿勢も学習環境づくりのひとつと捉えている。生徒自らが問題提起できる自主性をもてるよう、生徒が積極的に参加するように指導している。

どのようなカリキュラムなのか...??

例えは――

### ●国語

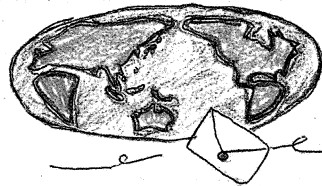
→自分の思いをまとも、正確に伝える表現力の育成を目指している。感想文・紀行文・詩歌の創作・読書ノートの記録などの文章を書いたり、調査・研究に基づいて発表したりして表現力を養っている。

### ●数学

→複雑な現代社会においては、計算だけでなく、物事を進めたい合理的な考え方や論理的に整理する数学的な能力が必要。基礎的な知識と技能の習熟とともに、物事の考察や実験を通して数学的な見方や考え方を養っている。

国際交流・語学研修を実施

オーストラリアや中国の相互訪問を中心とした国際交流プログラムなどのほか、カナダやニュージーランド語学研修プログラムを実施している。また、インターネットや文通を通して日常的に国際交流の機会を多く設け、生きた英語や外国の文化に直接ふれながら、国際性を養う指導を行っている。



アクセス 2020年3月

### ●地下鉄●

東山線「覚王山」駅下車  
ホーム西出口より  
「4」(西南)出口の階段をとり 徒歩7分

### ●市バス●

(系統記号 68. 幹4) 「覚王山」下車、徒歩7分  
( " 幹4 ) 「田代平通」下車、徒歩5分  
( " 67. 81 ) 「日蓮通り4丁目」下車、徒歩3分


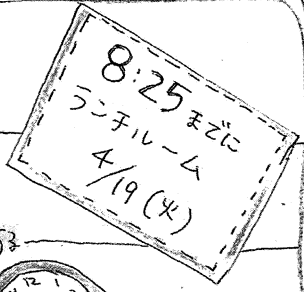

## ○見学に関する注意事項○

① 時間厳守  
 ↳ 集合時間と集合場所を正確に確認し、時間厳守で集合する!!  
 ④ やむをえない事情で欠席する場合は、実習園(校)には連絡を取り、次回の授業までに担当教員のもとに説明にいき、指示をおおぐこと!!

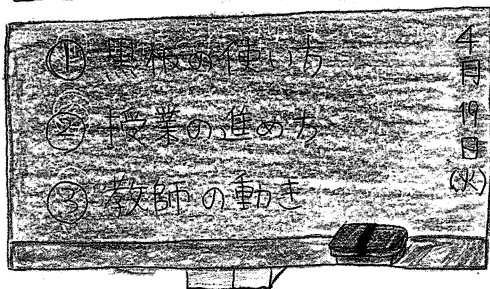
② 私語厳禁  
 ↳ 私語を慎むこと。  
 ケータイの電源はオフにすること

③ 大学生として適切な服装や態度を心がけ、実習マナーを守って行動する  
 ↳ 髪の色を適切な色にする。肩よりも長い髪の毛はひとつにおさめる。  
 教員および生徒に対して適切な言葉遣いを用いること。  
 校舎内では挨拶を交わすこと。  
 「荒玉」などの持ち合わせはしない。  
 交通ルールを守り、一般の方の迷惑にならないように歩く。

④ 見学場所にもっていくもの  
 ↳ 指定された名札を必ずつけること。  
 時計やわりのケータイはもちこめないのど、腕時計の着用。  
 貴重品は各自で管理する。

## ○実習での見方○



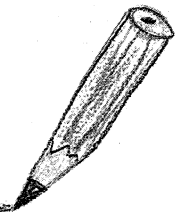
- ④ 教師と生徒のコミュニケーションのとり方
- ⑤ 机の上はどうか
- ⑥ 授業の雰囲気
- ⑦ 休み時間



## ○テーマ○

① 勉強しやすい環境の作り方とは...

② どのように集中力をたもつか。

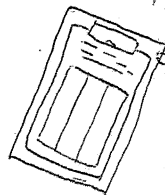


## ○事前に調べた内容○

～授業について～

生徒主体の授業を展開していました。  
チャイムが鳴るとともに自分の席にすぐ  
座れる姿は、とても授業に対する姿勢が  
感じられました。

教師と生徒のコミュニケーションの  
取り方が上手でした。クラスの雰囲気も  
とてもよく、良い環境だったのでは  
ないかと思いました。



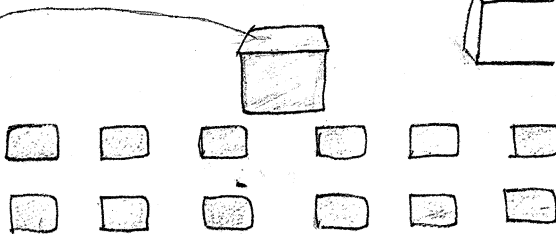
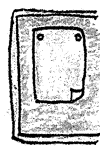
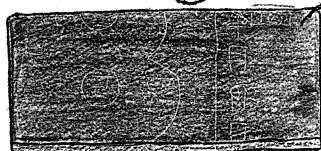
実習での  
ポイント

いろんな視点から観察をして  
みる!! 教師・生徒・第三者  
としてみることで、わかることは  
たくさんあるでしょう😊

## ○実習を通して...○

～教師の動き～

- 常に教室の中を歩き回っていた。
- 生徒たちに質問して、コミュニケーションをとっていた。
- 資料を使ってイメージを膨らませていた。(写真)
- プリントの資料を教科書にうつかえるように番号を整えて作っていた。
- 生徒たちが前回の授業について覚えているのか復習をさせていた。
- 生徒が1つ1つの言葉の意味も知っているのか確認していた。



～生徒の様子～

- 常に集中して授業に取り組んでいた。
- 教師の一挙一動の間に一生懸命に自分の考えを考えていた。
- 教科書に線をひくだけでなく、ノートに自主的に書きうつす生徒もいた。
- わからない問題などは、生徒どうして助け合いながら解決していた。
- ◎休み時間◎  
生徒たちが楽しそうにおしゃべりをしたり、次の授業の準備をしていた。

～黒板の使い方～

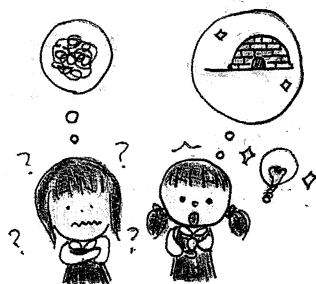
- 教師が一方白くに書くのではなく、生徒のペースにあわせてながら書いていた。
- 後ろの席の生徒にもきちんと見えるように大きな字できれいに書かれていた。
- ノートを復習した際にわかりやすいようにポイントがおさえてあった。
- すべてを黒板に書くのではなく、プリントを使う時もあった。
- チョークを色分けして書いてあって見やすかった。



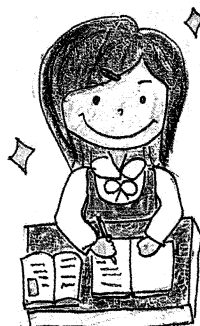
## ○テーマ○

### ①勉強しやすい環境作りとは～

生徒だけが授業を受ける環境を作るのではなく、教師と一緒に授業をするという環境にすることです。生徒の目線になり、疑問を考えたり、問いかけたりすることで、改めて学び考え直し納得することで理解していくと思いました。イメージを広げられるような資料を使うことで、知識を習得しやすいと思いました。また、教師と生徒とのコミュニケーション・クラスの雰囲気も大切だと思いました。



### ～②どのように集中をたもつのか?～



常にずっと同じことを繰り返しても、集中力はたもちません。実践的な活動(線を引いたり教科書を読んだり資料を使ったりを塗ったりなど)の作業をさせることで飽きることなく集中力が続くのだと思いました。また、生徒自身を受け身にさせないことが大切だと考えられました。コミュニケーションをとりながら、1人1人が楽しく集中できていました。

## ○意義論について○

～生徒の集中力の継続～  
班の意見

- ① 15～20分間程度の雑談。
- ② ひどくうさくなったら手をたたいて集中させる。
- ③ 声かけ。
- ④ 実践的活動をさせて、生徒自身を受け身にさせる。
- ⑤ 先生は生徒に興味をもたせる工夫。

ただすすめるのではなく、雑談を入れたり、手をたたいて生徒の集中をたかめてから、また授業を再開する。  
しかもではない!!

その他議論  
・集中できる環境づくり  
・黒板の効果的な使い方  
・細かい論点  
・授業中のおしやりがもたらす効果  
・言葉づかい  
・ページ数を書く必要があるなど

## ○感想○

私は、昨年まで学生であり高校の実習を受けることは、あまり勉強にはなうなと思っていました。けれども、実際に実習をうけてみると想像以上に多くのことを学べました。客観的に授業をうけることで、教師と生徒とのコミュニケーションの大切さや環境といったクラスの雰囲気は、大変重要だと考えられました。一人一人が助け合い、生徒が積極的に物事を理解する姿は素晴らしいかったです。

# 附属中学校見学実習

椋山女学園大学

## ① 事前に調べた内容

### 4つの教育目標

椋山女学園の教育理念「人間になろう」を具現化するために、4つの教育目標を掲げている。これは、生徒たちが学園生活全般をとおして調和を保って成長し、椋山のめざす人間性を育成するための「人間教育」の目標です。



健康で鍛えられた  
身体



科学的体系に  
基づく基礎学力



社会的認識の  
上に立つモラル



豊かな情操と  
創造力

### 教育の特色

- 学園の理念誕生の地に
- 中高一貫体制によるカリキュラム編成
- 主体的な体験と読書活動
- 人間を探究する「4つの教育目標」
- 基礎学力を上げ、学習の楽しさを実感できる授業
- 国際的視野を育むために

## ② テーマについて

① 授業に集中していない生徒への対応をどうすべきか。

② 生徒に指名をすべきか。または、挙手をさせるべきか。

## ③ 観察の視点・記録の書き方

### 校舎や教室について

- ・校舎内の構造(クラスへの配置・職員室への場所など) ・教室への机への配置
- ・教室内の掲示の内容と種類 ・教室内に置かれているもの(ロッカーや教具など)

### 教師と児童・生徒への関わりについて

- ・教師は児童・生徒をどのように呼ぶか
- ・教師の働きかけに対し、生徒はどのように反応しているか。
- ・どのような逸脱行動が見られ、教師はそれにどのように反応するか。
- ・教師の視線や動きについて

### 授業の構成について

- ・授業の構成 ・黒板の使い方 ・どのような場面で「発問」が用いられるか。
- ・生徒が主体的に授業に取り組むようにする工夫
- ・どのような暗黙のルールにのっとり授業が進んでいくか。

### 児童・生徒の様子について

- ・どのような場面で集中が増すのか ・机の上には何があるか。
- ・どのような場面で逸脱行動が多くなるのか。 ・休み時間には何をしているか。

## ④ 見学に関する注意事項等

### ・時間厳守(遅刻厳禁)

### ・私語厳禁

＊校門に入ら前に携帯電話の電源はオフにすること。

- ・大学生として適切な服装で、それ以外の場合はスーツを着用すること。

＊髪の色を適切な色にすること。

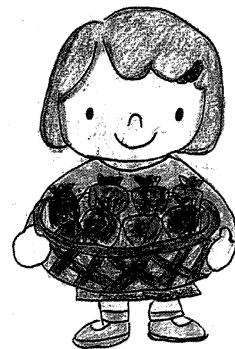
＊授業が終了後、先生にお礼の挨拶をすること。

＊学園の敷地内および周辺での飲食を禁ずる。

- ・忘れ物をしないこと。

＊指定した名札を必ずつけること。

＊腕時計などを着用すること。



## ① 事前に調べたことにより学べたこと

私は、保育、初等専修など、幼稚園については関心があったが、小学校、中学校、高等学校についてはあまり関心なかった。保育を行うのだから、幼児についてさえ知識があれば良いと思っていたからだ。しかし、ふふふい実習の事前学習や、実際のふふふい実習を通して、幼稚園、小学校、中学校、高等学校の全てについて知ることになったことも大切なことであると学んだ。

また、私は主に園見と接することになるが、園児も成長していく。よって、その成長を見据えた保育をしていくことが非常に重要ではないか、と感じた。



## ② 自分のテーマについて学べたこと また、自分が先生であれば、どのようにしてみるか。

Q. ① 授業に集中していない生徒への対応をどうすべきか。

A. 集中していない生徒にはしっかりと注意をしていた。このような際には、しつけとして叱ることも大切であると感じた。

また、集中力が切れた際、話を聞かずにいる生徒は、興味を失っている。

自分が先生であつたら...

“悪いことは悪い”としっかりと教えることが、その生徒のためにもなると思うので、「ちゃんと集中しなさい」と叱る。しかし、生徒が集中できないということは、教師の教える内容など、教師側にも責任があると思うので、こちらにも改善点を見つけようと思う。

Q. ② 生徒に指名をすべきか。または挙手をさせるべきか。

A. 見学した授業では、指名制により授業を進めていた。

指名制の利点は、授業を円滑に進められ、また全ての生徒に自分の意見を述べさせる点であると思う。

よって、挙手制の利点は、生徒の積極的な姿勢を育てる点であると思う。

自分が先生であつたら...

生徒の自主性を育てるために、挙手制を推進すると思う。



### ③ 観察実習を終えてへ感想

私の思い描いていたイメージでは、教師は授業中は授業の進行に努めるのみだと考えていたので、授業中に教師が余談をしていたことに驚いた。しかし、教師は生徒の興味を惹くということを意図したうえで、余談をしているのであり、そのタイミングを図ることは難しいと思った。また、プリントを使用することにより、授業をより円滑に進められることがわかった。これにより、教科書へ他に副教材を使用することの重要性を学ぶことが出来た。

### ④ 討論を通じて学んだこと

議論したこと

- ① 集中力は、先生によって変わるのか。
- ② 生徒が集中力を失ったときの対処法。

どうするべきか

☆ 集中力を保っていた先生の特徴

- ・コミュニケーションが多い
- ・切り換えが上手。

☆ 集中力を保ていなかった先生の特徴

- ・コミュニケーションが少ない。
- ・厳しい
- ・カリキュラムどおりすぎる。

♥ 対処法 ♥

- ・問いかけの方法を変えてみる。
- ・余談するだけはダメ!
- ・緊張感を保つことが大切。

- ・切り換えが大切。

→ but - 一緒に楽しむときは、楽しむよ  
- 先生も一生懸命な姿を見せる。

子どもは、こういうことを見ている。

### ⑤ 討論で他の学生のまとめを読んで学んだこと、自分も取り入れてみたいこと

「“切り換え”が、保育や授業において大切だ!」ということを知ったので、私も“切り換え”を重視した保育をしていきたいと思った。

表4 「施設調べ」が役立つ程度を「どちらともいえない」と回答した学生の理由

- ① 前に施設調べをすることによって、見学時に注目する点などを確認できたのでよかったです。
- ② ふれあい実習で附属校、園に見学に行くことや、事前に調べることはいいと思う。  
しかし、結構前期に授業が詰められていて、多くの授業でもレポートがあったり、時間が少ないので、まとめを書くことが多少苦痛だった。
- ③ 事前に施設について調べられたのは良かったけれど、他の授業での課題も多くあり、なかなか時間がなくて大変だった。全員共通の報告書があるのだから、別になくてもいいのでは、と思った。しかし、レポートを書く力は多少身についたと思うのでよかった。
- ④ 『討論を通じて学んだこと』と『感想』は実習を振り返ることができ、自分の考え、意見もまとめることができるので良いと思う。しかし、『事前学習』は実習時間の短さと、授業のみを見るところから、あまりやって良かったと思えるほどの成果を感じない。
- ⑤ 幼稚園については、意味があったと思うが、小、中、高については無意味なのではないかと疑問に思うこともあった。
- ⑥ 多くのすばらしい先生の授業を見れ、とても学ぶべきことが多くあった。

次に「どちらともいえない」と答えた6名からは表4の理由（問2）があげられた。その理由をふまえ、「役に立ったかどうか」という点で、この6名の書いた内容を再度評価してみると、①、②、③と述べた学生は基本的には「役に立った」と感じていると考えられる。また、④、⑤と書いた学生は、部分的に「役に立った」と感じていると解釈してよいと考える。

表5 「施設調べ」に対して価値を認めた13名の学生が、その理由としてあげた記述

- ・事前に施設について調べることで、学校の教育目標とかカリキュラムとかが分かったので、見学するときに少し意識ができた。
- ・教育目標などを事前に調べることによって、授業を展開する先生方の目的などを理解できた。
- ・そこの教育理念等を理解し、それについて着目して観察することができた。
- ・事前に調べることによって多くの視点から見られたのでよかった。
- ・テーマをはっきりさせてから見学実習に行くことができたので見たいポイントがはっきりしていて良かったと思う。
- ・事前に自分の見たいポイントが決めてあったのでレポートをまとめるときにやりやすかった。
- ・どのようにメモをとるか、どこに注意してみるか、がわかってよかった。

表5は、問1に対して「ある程度役に立った」という回答した13名が、その理由（問2あるいは3）について記述した結果をまとめたものである（複数回答あり）。上記の記述を整理してみると、①学校等の教育理念・目標やカリキュラムについて事前に調べてことで、見学実習のテーマが明確化できたり、見学の際にどこに焦点をあて観察すべきかの意識が高まったり、授業を展開する教員の目的が理解できた ②事前に調べることで、観察の視点が偏らず、多方面から観察できた ③事前に調べ自分に関心のある側面を決めておくことで、見学時にはどこに注目し、記録を取るとよいか明瞭になり、まとめの作業をしやすかった、となり、学生がどのような点で「施設調べ」に価値を見出しているかが分かる。

これらの学生の思いについてコメントするとすれば、比較的短時間での見学であることから本プログラムのかかえている弱点ともいえる点を、この「施設調べ」という手間のかかる課題があることにより、逆説的な言い方ではあるが、やる価値のあった課題であると感じさせる効果を生みだしていると考えられる。学生がこのことを意識しているかどうかは別として、このような課題をすることに費やす時間と労力を、より意味あるものにしたいとする結果、前向きな評価をしたと解釈できる。

表6 「施設調べ」の完成に対して価値を認めた13名が問4に対して記述した内容

- ・自分が学んできたことを細かくまとめることで、先生方の工夫等がより分かった気がした。見学した時は、ただ気づいた事をメモしていただけたけど、まとめをすることで、どんな効果があるのかとか、どうしてそうなったのか等のことを考えることができた。
- ・他の子の意見を聞いたりしてまとめていたので、自分の考え（だけ）にとどまることがなく、いろいろな考えを知ることにつながりました。
- ・自分が見た授業について分析することは、自分がどのような先生になりたいかや、生徒とどのように関わりたいかなど自分の意思を発見する機会にもなった。
- ・討論した内容を書くことによって、より深く自分の記憶に問題点などが刻まれ、将来、自分が現場に入り、同じような問題に直面したとき、少しは解決策を導き出すきっかけになると思う。
- ・他の人のまとめを見て、より刺激を受けた。絵やレイアウトなど、まとめだけでない工夫を考えることも必要だと気づけました。

表6は、表5と同じく「施設調べ」を肯定的に評価した13名が問4に対して記述した内容をまとめたものである。上記の記述で、学生が「施設調べ」の裏面を完成させたことで認めた価値は以下のような点である。①自分の学びをまとめることで、現場教師の工夫やその効果等について考え理解できた ②見学した授業について分析することで、自分の教師像についても明確化できた ③見学事後の討論により、いろいろな考え方がることがわかり、視野が広がり、深く考えることができ、将来、自分

が現場に立った時にも役立つと感じた ④他の学生のまとめを見て、さまざまな工夫がなされており刺激を受けた。ただまとめるだけではなく、工夫が必要であることに気づけた

このように、「施設調べ」の裏面における見学後のまとめ、つまり見学したことでの学びの成果等をまとめたこと、さらにそれを学生同士で討論することを通じて、お互いに刺激し合い、将来教える立場に立った時の心構えを具体的に考えることができたということで、専門家を目指す学生たちがこの作業の価値を認めたものとする。

#### 4. 考察

結果として、部分的に「役に立った」と述べた学生を含め、19名（95%）が、「施設調べ」を役立つものと感じていることが明らかとなった。ここでもう一度、この結果について考えてみる。

まず、見学前に「施設調べ」をすることで、学生たちは見学先である学校等の教育理念・目標やカリキュラムについて調べ、必要な予備知識を獲得したことで見学実習のテーマが明確化できたといえる。また見学の際にどこに焦点をあて観察すべきかの意識が高まり、授業を展開する教員の目的についても考えることができています。

次に、事前に調べておくことで観察の視点が偏らず、多方面からの観察できる余裕が持てる一方、自分に関心のあるテーマを決めたことで、見学時にはどこに注目し、記録を取るとよいかが明確になり、まとめの作業もうまくできたという満足感につながり、学生は「施設調べ」に価値を見出したと考えられる。これは先に述べたように、「施設調べ」による見学前の学びが無駄にならないようにしたいという学生の「前向きな姿勢」とも関係しているといえよう。学生自身の前向きな姿勢、これが学生の工夫や意欲につながり、「主体的な学び」の一因となっていると解釈できる。つまり、「施設調べ」という枠組みが担当教員の方で用意されたことで、学生の「主体的学び」につながったと考える。

一方、見学後に「施設調べ」の裏面にある課題を行うことで、以下のような成果がえられたと考える。自分の学んできたことをまとめることで、現場教師の工夫やその効果等について考え、教師のねらいが理解でき、また実際に見学した授業について分析することで、自分の求める教師像についても明確化できたようである。さらに見学後の討論における他の学生の意見・感想を聞き、いろいろな考え方があることがわかり、視野が広がり、深く考えることができ、今回の見学が、将来、自分が現場に立った時にも役立つと感じたといえる。最後に 他の学生のまとめを見てさまざまな工夫がなされていたことに刺激を受け、ただまとめておけばよいのではなく、工夫が必要であることに気づけたなど、「施設調べ」の裏面における見学後のまとめ、つまり見学したことでの学びの成果等をまとめ、学生同士で討論することを通じて、お互いに刺激し合い、将来教える立場に立った時の心構えを具体的に考える上でも、この作業



の価値を認めたといえる。

以上のような過程のなかで学生が学んだ内容は、教員等から教えられる内容とは異なり、「施設調べ」という枠組み通じて、学生たち自身が主体的に取り組み、獲得したものであるといえる。

このように、見学前と後における「施設調べ」という課題を課したことが、学生の「主体的学び」につながったものと考ええる。

今回の調査結果は、筆者がこれまでの経験から大切にしてきた「授業の中で、実習の意義に関する内容を学生に主体的に学んでもらうこと」を実現するために、このような「施設調べ」を行うことが大きな意義をもつことを示していると評価できる。

今後の研究においては、以下のような点についても、さらに検討をしたいと考える。

第一には、「結構前期に授業が詰められていて、多くの授業でもレポートがあったり、時間が少ないので、まとめを書くことが多少苦痛だった。」や「他の授業での課題も多くあり、なかなか時間がなくて大変だった。」といった、学生の思いに対してどのような配慮が望ましいか、という点である。担当教員自身が、初めて受け持った授業ということで、これまでのやり方を踏襲する一方で、自身がこれまでの経験から効果的であると考えていた「施設調べ」を導入したことで、授業において同じ種類の課題、具体的には見学後に作成していたレポートと重なる部分があったことを認識し、今後はこのレポートを廃止して、「施設調べ」に組み入れることが一つの方法と考える。

第二は、「『施設調べ』は実習時間の短さと、授業のみを見るというところから、あまりやって良かったと思えるほどの成果を感じない。」や「幼稚園については、意味があったと思うが、小、中、高については無意味なのではないかと疑問に思うこともあった。」という意見についてである。他の意見の中に、当初は、「小、中、高については無意味なのではないか」と、似た思いを抱いていた学生が「実際に行ってみて、参考になったことが多くあった」と述べている場合もある。簡単には結論を出せない内容であるが、「施設調べ」の意義についての説明をこれまで以上に丁寧におこなうことが必要といえよう。特に、発達の著しい子どもたちの保育・教育を考える際には、発達の連続性、つまり子どもから大人への発達については、連続した流れの中で、その中の一時期を理解する必要があること、そのためには幼稚園・小学校・中学校・高校のすべてを見学しておくことは意義のあることであると、心理学を専攻してきた筆者として、今後強調したいと考える。

## 謝辞

本研究をまとめるにあっては、大変お忙しい中、野崎健太郎博士に原稿を査読いただいた上で、様々な角度から、きめ細かい適切な助言・指導をいただいたことに対し、心から感謝する。また、授業において、本研究を進める上で協力をしていただいた学生の皆さんにもお礼を申しあげたい。

■引用文献

- 奥ほか（2009）保育者を志す学生の保育所実習前後の意識変化－保育所実習に関する学生へのアンケート調査から－保育士養成研究, 27：45-54.
- 須藤ほか（2009）“ケース検討形式”を中心とした実習事後指導のあり方に関する一考察, 保育士養成研究, 27：65-72.
- 鈴木大介（2006）実践教育導入期における『観察演習プログラム』の有用性－保育士養成教育における取り組み－, 保育士養成研究, 24：1-10.
- 中津ほか（2007）保育所実習の事前指導における保育所見学観察実習, 保育士養成研究, 25：19-25.
- 服部次郎・谷田貝雅典（2010）保育実習（施設）の意義について－実習を終えた学生のアンケートから見えてくるもの－, 岡崎女子短期大学研究紀要, 43：47-54.